速 報*Letters to Editor*

日本海西部の大羽イワシ漁況について—I~II.

児 島 俊 平

(島根県水産試験場)

On the Fishing Condition of Sardine (*Oba Iwasi*) in the
Western Japan Sea—I~II

Shumpei KOJIMA

大羽イワシ漁業の島根県沿海に於ける重要性に鑑み、漁況予報の明確を期すべく、1949~1953年にわたり島根、山口両県沿海で本漁業に従事し、次の如き考察を得たので報告する。

日本海沿海の大羽イワシ漁況は、12月中旬山口県沿海に出現して行動を起すに始まるが、例年に於て初漁の生起状況は、対馬海峡から東は島根中部沖合にわたつて、水温 $17^{\circ}\sim 18^{\circ}\text{C}$ 、塩素量 18.8% 台の接線上に生起されている。水温 $17^{\circ}\sim 18^{\circ}\text{C}$ 、塩素量 19.2% 合になるとおゝむね終漁している。これにより、水温の如く塩素量範囲にも比較的一定した適塩分範囲が有り、両範囲の重合により同期間、漁期、漁場が形成され進転するものと思われるから、初漁群の分布は島根中部沖合が北限とし、生起状況より南下群のある事を指摘した。

島根沿海の漁況は隣接海区(山口沿海)とは余り関連性が認められず、豊凶の差が甚だしく、不漁年には約3ヶ月の漁期空白を生じる。これの要因としては、水温関係よりもむしろ対馬暖流々域の高鹹水団の移動経路に左右されておる。隠岐水道より寒冷水(低鹹)の流入は冬期に甚だしく、強勢年には南下し島根沿海を掩ひ高鹹水団の接岸と北上をさまたげ、浜田沖合より極端に移動経路の沖合偏向をよぎなくさせており、豊漁年の漁場(距岸2~5哩)には漁場は形成されなく、高鹹水団に沿ふ、20~30 哩に漁場が形成されている事が魚群探知器により明白となつたから、今後は約3ヶ月に渡る漁期空白を消滅さす事が出来る。

一般に大羽イワシが北上の際、隠岐水道を通過するものと考えられているが、出雲半島沖合の漁期は石見沿海に比較して昔往より約2ヶ月遅れ、3月に入り高鹹水団の伸長を待つて漁期に入るものである。

能登半島以南海区の豊凶は島根沿海の豊凶に準じるが、隠岐水道の低鹹水の消長は能登以南沿海の低鹹水の消長を物語るもので、一番イワシの接岸を不可能にしている。